

大雪山系縦走報告

9日目（9月4日(金)）

M3 只左一也

2009年8月27日(木)－9月6日(日)

メンバー：M3 只左一也、M3 大橋雄一

1日目：羽田空港→旭川空港→(バス)→層雲峡
→(ロープウェイ・リフト)→七合目→
黒岳→黒岳石室（小屋泊）

2日目：荒天のため沈黙（小屋泊）

3日目：黒岳石室→間宮岳→旭岳→間宮岳
→北海岳→白雲岳避難小屋（小屋泊）

4日目：白雲岳避難小屋→忠別岳→五色岳→
沼ノ原大沼（幕営）

5日目：沼ノ原→五色岳→化雲岳→
ヒサゴ沼避難小屋（小屋泊）

6日目：ヒサゴ沼避難小屋→トムラウシ岳→
南沼キャンプ場（幕営）

7日目：南沼キャンプ場→オプタテシケ山→
美瑛富士避難小屋（小屋泊）

8日目：避難小屋→美瑛富士→美瑛岳→
十勝岳→上ホロ避難小屋（小屋泊）

9日目：上ホロ避難小屋→富良野岳→
富良野岳分岐→(原始ヶ原)→五反沼
→(原始ヶ原)→富良野岳分岐→
原始ヶ原登山口→(車道)→布礼別→
(バス)→富良野駅→(電車)→
上富良野駅→日の出キャンプ場
(幕営)

10日目：十勝岳温泉往復（幕営）

11日目：上富良野→旭川空港→羽田空港(解散)

起床	03:00	
上ホロ避難小屋	04:30 発	
上ホロカメットク山	04:50 着	05:10 発
三峰山	05:55 着	06:05 発
富良野岳	08:05 着	08:35 発
富良野岳分岐 (原始ヶ原)	11:20 着	11:50 発
五反沼 (原始ヶ原)	13:25 着	14:05 発
富良野岳分岐	15:20 着	15:40 発
原始ヶ原登山口 (林道・車道)	16:55 着	17:20 発
布礼別バス停 (バス)	19:15 着	20:00 発
富良野駅 (電車)	20:35 着	20:44 発
上富良野駅	20:58 着/発	
日の出キャンプ場	22:00 着（幕営）	

(歩行時間：約 11 時間 30 分)

1日に台風が通過してから、2日、3日と快晴が続いたが、前日の予報ではこの4日から崩れてくるということだった。そこで、計画では2日に分ける予定だった上ホロ小屋から原始ヶ原登山口までと、原始ヶ原散策を1日で済ませてしまうことにした。この日は3時に起床して、4時半に小屋を出た。日の出前だったが雲が多く、空がどんよりしている。上ホロカメットク山頂に着いたときは日の出の直前だった。東の空にも雲が多かったが、雲の隙間から登って来るお天道様を拝むことができた。美しい朝焼けだった。

なだらかな稜線を進み、三峰山（さんぼうざん）のあたりに差し掛かると岩が多くなり、ナキウサギの声があちこちで聞こえてくるようになった。南の日高山脈の方を見ると、山の上に黒いカーテンがかかったようにわか雨が降っている。きっと土砂降りなのだろう。

三峰山の山頂で小休止をしてから出発して間もなく、すぐ近くからナキウサギの声が響くと同時に、ナ

キウサギが岩の間から飛び出してきた。手を伸ばせば届きそうな距離である。驚かせないようにゆっくりをカメラを構え、写真を撮った。コンパクトカメラでこれだけ大きく撮ることができて、大満足だった。日高の方を見ると、雨のカーテンが西から東へ移動している。上空の雲もどんどん厚くなってきた。このあたりも降り出すのは時間の問題かもしれない。

しばらく行くと、北キツネが稜線をのんびり歩いていた。富良野岳分岐で休んでいると、富良野岳の方から登山客が一人下ってきた。これがこの日出会った唯一の人だった。

富良野岳の登りはなかなか気持ちの良い稜線で、夏には高山植物が多く咲くようである。左手の眼下に原始ヶ原の原野が広がっている。周囲の景色を楽しみながら進むうちにさらに雲が多くなっていく。8時過ぎ、山頂に到着。眼下に、原生林の中に湿原の点在する原始ヶ原の原野が広がる。この原野をどうしても歩いてみたくて、アクセスの良い十勝温泉の方ではなく、交通の便の非常に悪い南側に下ることに決めたのだった。

黒岳から旭岳～トムラウシ山～オプタシケ山～十勝岳～と、広大な大雪山系の直線距離にしても40km以上の稜線を北の端から歩いてきたが、この稜線は富良野岳が南の端になる。原始ヶ原は楽しみではあるが、この稜線とお別れするのも名残惜しく、30分ほどゆったり景色を楽しんだが、この先の行程が長く、天気も崩れそうなので、原始ヶ原に向かって下ることにした。

下り始めるとすぐに道が悪くなり、歩きにくくなる。やはり、このルートを取る登山者は少ないのだろう。しかし、原野を見下ろしながら下るのは大変気分が良かった。それに、高山植物が多く、まだ花が結構咲いていた。やがて森林限界の中に入り、ダケカンバの林をぬけ、下草に笹の密生する針葉樹林帯を抜けると、湿原にでた。道は全く整備されておらず、トレースと赤い目印を辿って歩く。途中、何度か大きなヒグマの新しい足跡を見かけた。近くにいるのだろうが、やはり人を避けるようで、全く姿を拝むことはなかった。

時々振り返ると、富良野岳が少しずつ小さくなる。ところどころにある水たまりを覗きこむと、サンショウウオの子供が泳いでいた。

富良野岳から3時間、ようやく原始ヶ原の分岐に到

着。ほとんど休みなく歩き続けたので、昼食を取り、30分ほど休憩をした。

ここからいよいよ原始ヶ原である。道は急にはつきりしなくなり、かすかな踏み跡が残る程度となったが、目立つピンクのリボンの目印が狭い間隔でつけてある。沢沿いに登山口に下る道との分岐を過ぎると、背の高い笹藪の下草の生えた樹林帯の入口に「五反沼入口」の標識が掲げてあった。樹林帯に入ると笹の背丈がどんどん高くなり、とうとう背丈を超える藪となってしまった。わずかなトレースを頼りに藪をかきわけて進むと、また湿原に出た。ここは人がほとんど入らないためか人間の気配が全く感じられず、「原始ヶ原」という名前がぴったりの雰囲気だった。この山行を最初に計画するときに逆コースも考えたが、原始ヶ原をこの縦走の最後に持ってきたのは正解だった。

笹藪と湿原を交互に進み、途中で何度か小さな沢を渡り、黙々と進んでいくと突然水路のような小川が行く手をふさいだ。水路沿いに少し進むと、水路は次第に太くなって、そして枝分かれして、それぞれが枝別れのすぐ先で途切れていた。その先端に行ってみると、先端の底から水が湧き出していた。どこの先端も同じようにそこから水が湧き出しているようだった。これが原始ヶ原の最奥にある五反沼だった。とても不思議な雰囲気沼だった。何も考えずぼーっと沼のそばに座り込んで休んでしまった。

すっかり頭の中が空っぽになって何も考えずに元の道を引き返し、ところどころ脛の上まで泥に埋まりながら湿原と笹藪を交互に進み、分岐に戻った。たっぷり3時間半の往復だった。

ここから登山道は沢沿いの歩きやすい道となり、原始ヶ原の余韻に浸りながらのんびり下って行く。途中、この縦走中唯一、煮沸しないで飲める水場「天使の泉」でのどを潤す。さらに30分ほど下り、夕方5時前、ようやく駐車場のある原始ヶ原登山口に無事到着。ほっと一息つきたいところだが、バス停までここから林道と車道をさらに7kmほど歩かなければならない。泥泥のスパッツを外し、スニーカーに履きかえ、薄暗くなり始めた林道をてくてく歩く。林道から車道に出たが、街灯がないのでヘッドライトをつけて歩く。2時間ほど歩き、ようやく富良野の布礼別集落のバス停に到着。こうして、9日間の縦走は無事終了した。

上富良野駅の駅近くにオートキャンプ場があるこ

とを知っていたので、キャンプ場に電話したら、遅くなくてもいいよ、ということだった。8時の最終バスで富良野駅までバスに揺られ、最終電車に乗り込んだ。高校生や通勤客が結構多く、9日間風呂に入っていない汚い格好をした私は小さくなっていた。上富良野駅で降り、キャンプ場を目指したが道を間違えて遠回りをしてしまい、着いたのは10時になってしまった。しかし立派なキャンプ場で、シャワーもあり、9日間の汗を流すことができた。

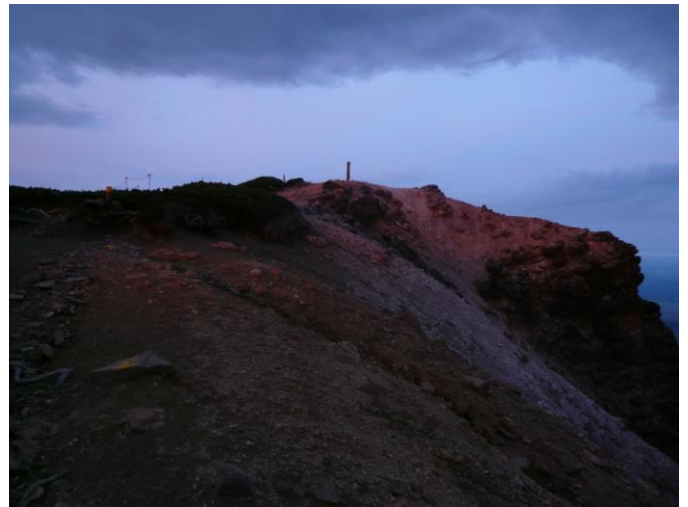
翌日は丸1日空いたが、さすがに疲れ果てていたので観光に出かける気も起こらず、バスに乗って近くの十勝岳山麓、吹上温泉でゆっくりすることにした。ここは長期で湯治をする人のために作られた施設で、実際に自炊をしながら泊まり込んで湯治をしている方々が結構いた。というわけで温泉の質が良いためだと思うが、腰の痛みや脚の疲れが消えてしまった。

最終日、上富良野駅から旭川空港直通のバスで空港に向かった。天気が良ければ9日間かけて歩いた稜線を横から眺めることができるのだが、残念ながら山は雲の中だった。予約していた飛行機に乗って予定通り羽田に到着、解散となった。

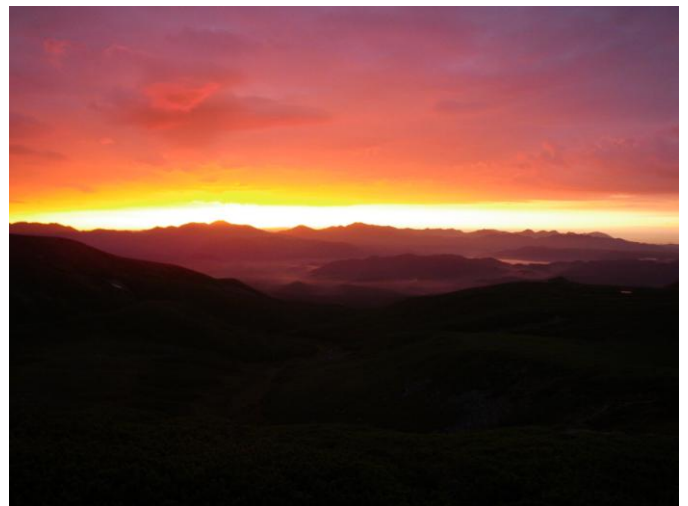
この縦走を計画するにあたって貴重な情報を下さった皆様、ありがとうございました。あるOBの先生が、「大雪の雄大さはアルプス以上」とおっしゃっていましたが、同感です。これは実際に行って自分の目で見てみないと分からないでしょう。私はもちろんアルプスも好きですが、すっかり北海道の山の虜になってしまいました。来年の夏も、今度は花の咲く時期にまた行きたいと思っています。

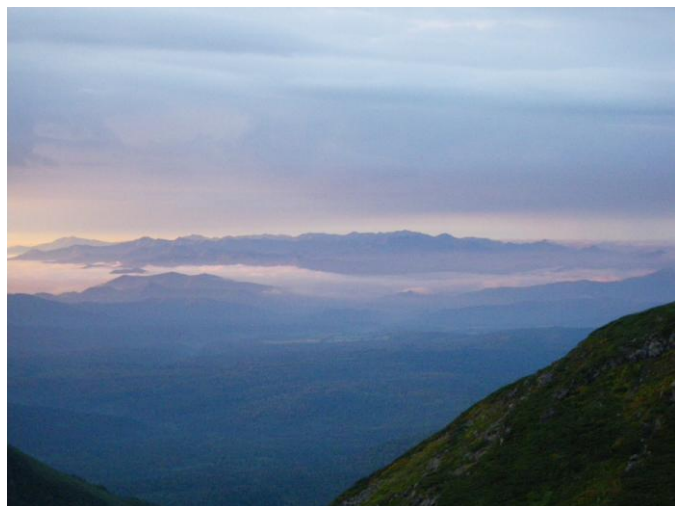


夜明け前。小屋の前から。

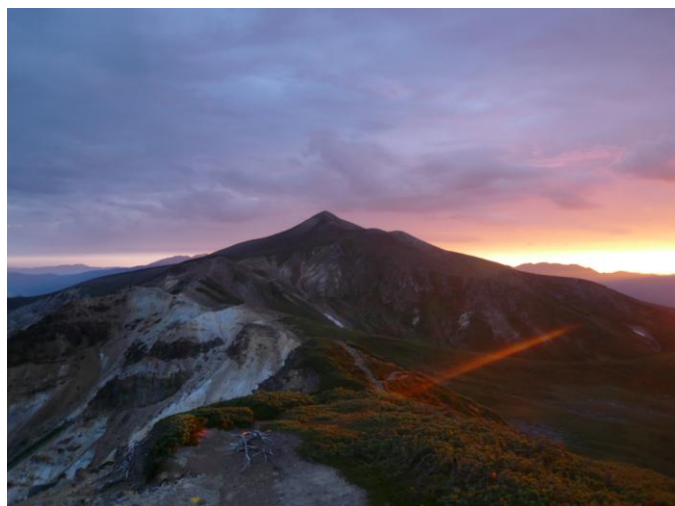
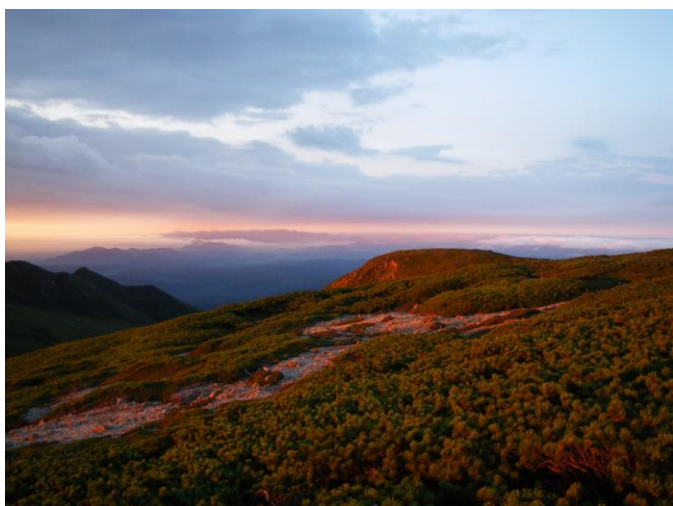
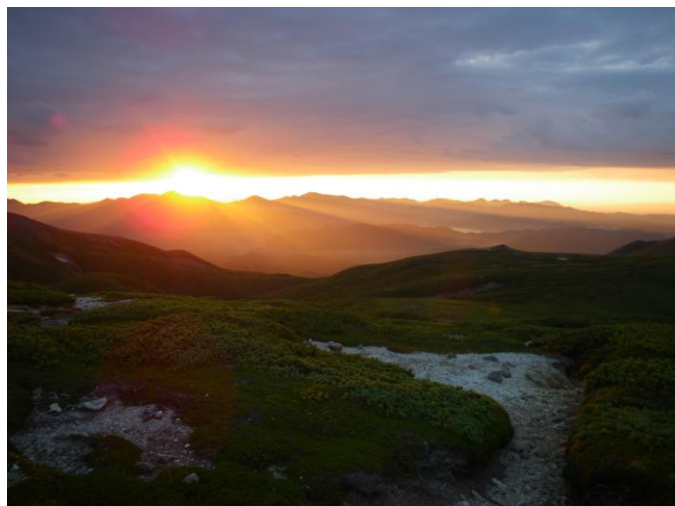
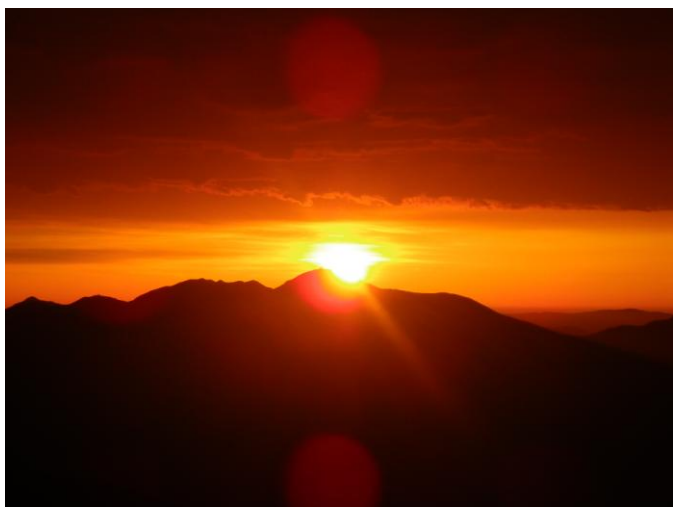


上ホロカメットク山頂で日の出を待つ。

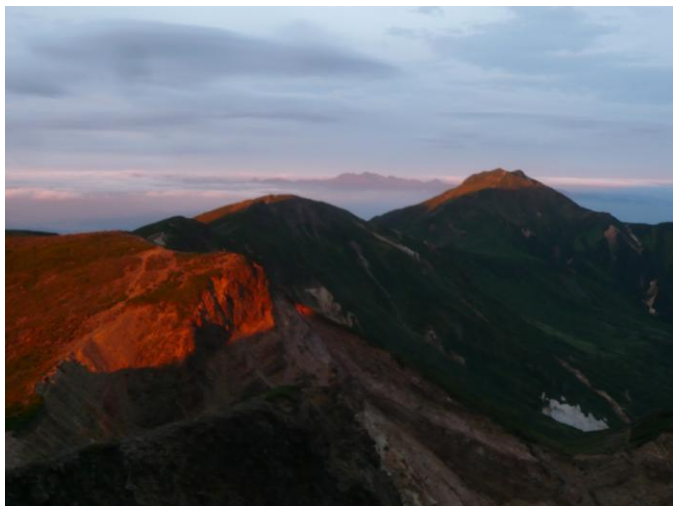




日高山脈。



十勝岳。



これから歩く稜線。右は富良野岳、遠方は夕張山脈。



三峰山と富良野岳。



上ホロカメットク山頂で朝焼けを楽しんだら、出発。
中央は上富良野岳（1893m）のピーク。



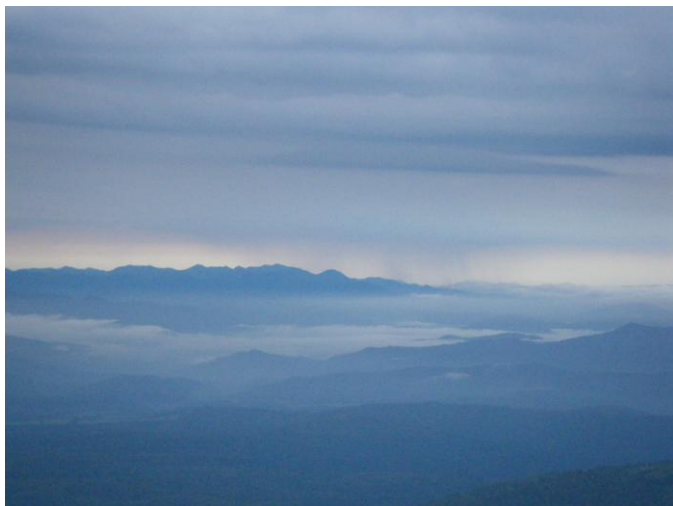
北西に広がる溶岩台地。中央右の白い建物は十勝岳温泉。ここまでバスが来ているし、駐車場もあるので、ほとんどの人はこの一帯を登るときはここをベースにする。



上ホロカメットク山を振り返る。



日高山脈の上に厚い雲がかかっている。



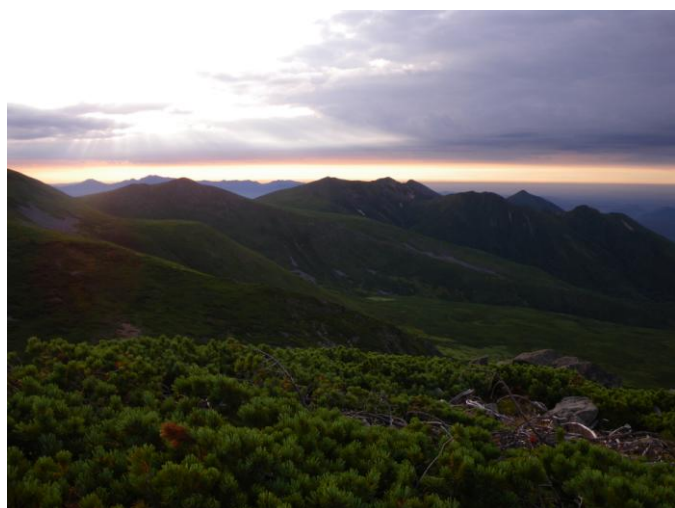
よく見ると、黒いカーテンのように、雨が降っている。
きっと土砂降りなのだろう。



三峰山の山頂。



三峰山（さんぼうざん、1866m）。



エゾノツガノザクラの花。



十勝岳の方を振り返る。



手を伸ばせば届きそうなほど近くにナキウサギが現れた。



イワギキョウ。



キタキツネ。



富良野岳はなかなか立派な山。



南西の眺め。麓の原野が原始ヶ原。



富良野岳分岐。右に下ると十勝岳温泉へ。



富良野岳。



富良野岳は登山客が多いためか、道がよく整備されている。



草紅葉の富良野岳南東斜面。



山頂まであと少し。



富良野岳山頂。



十勝岳方面。



眼下に原始ヶ原が広がる。左手遠方には日高山脈。



山頂でのんびりしている間に、さらに雲が多くなってきた。



富良野岳からの下りは急で歩きにくい。



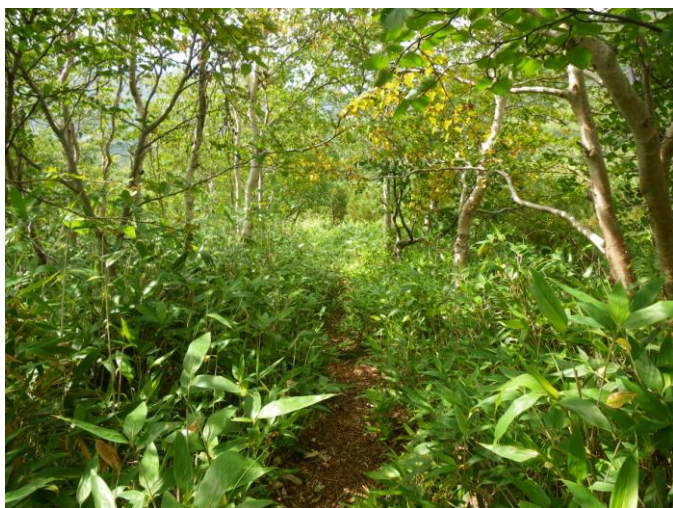
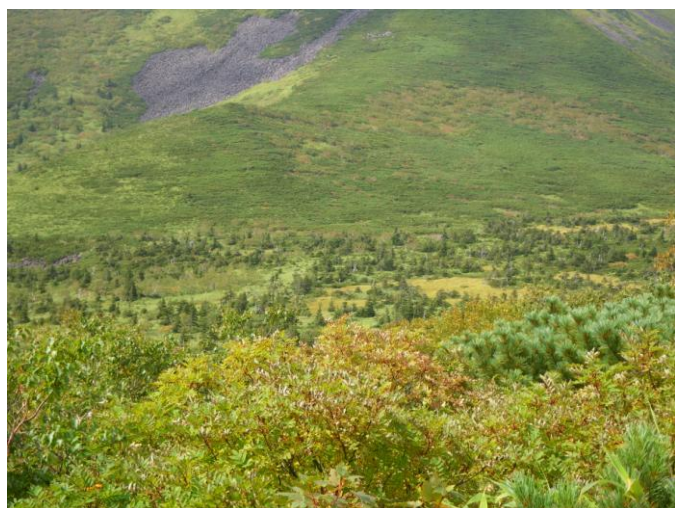
正面の山は前富良野岳（1625m）。



前富良野岳。



その左手には原始ヶ原が広がる。



ダケカンバの林。



野生のブルーベリー。甘くて美味しかった。



富良野岳を振り返る。



湿原に出た。



このような湿原が続く。



20cm ほどの生々しいヒグマの足跡。





登山口方面と原始ヶ原方面の分岐点。



「五反沼入口」の標識。ここからところどころ背丈を超える笹やぶとなる。



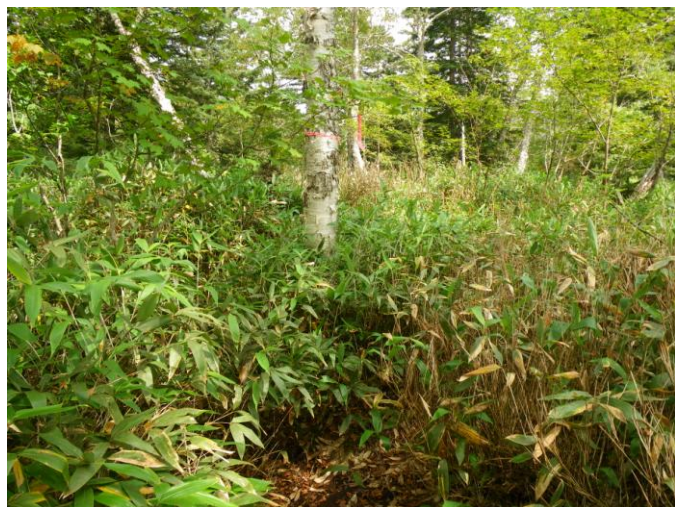
富良野岳が遠くなった。



背丈を超える笹やぶをこぐ。



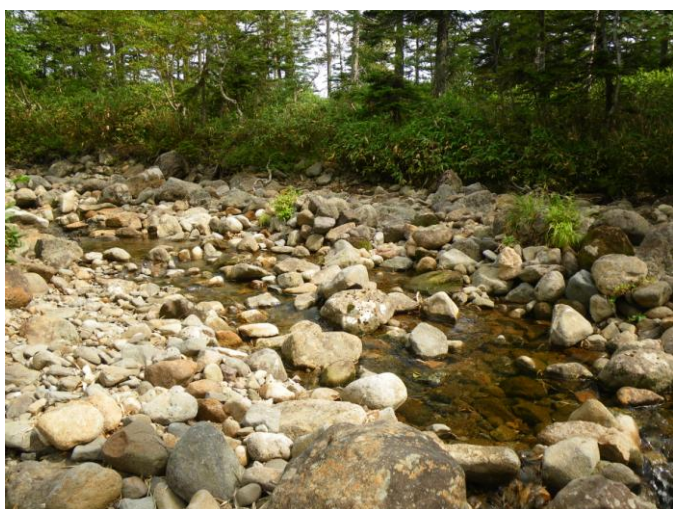
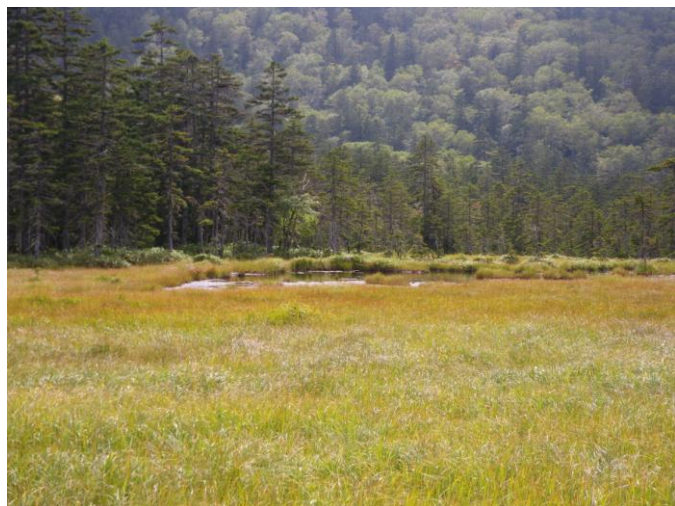
「原始ヶ原」の標識。



マークがしっかりしているので迷うことはない。



再び湿原に出る。このように藪と湿地を交互に進む。



3回、小さな沢を横切った。



原始ヶ原の最も奥にある五反沼。



ここで枝分かれしている。

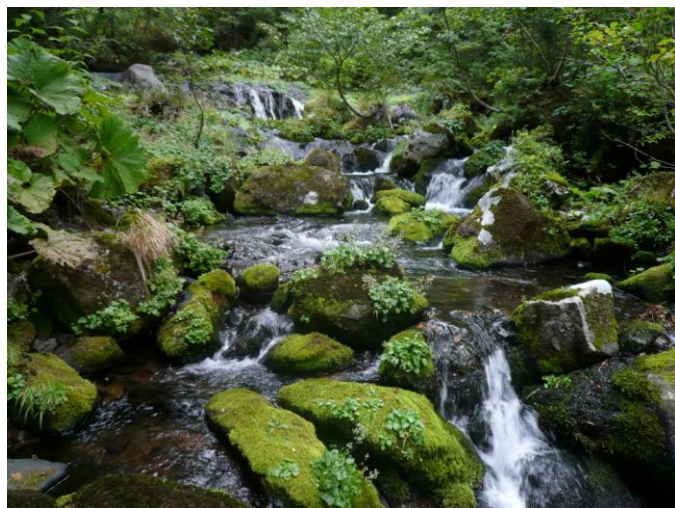


それぞれの枝分かれの先端では水が湧き出している。



分岐点まで原始ヶ原を引き返す。正面の山は前富良野岳。

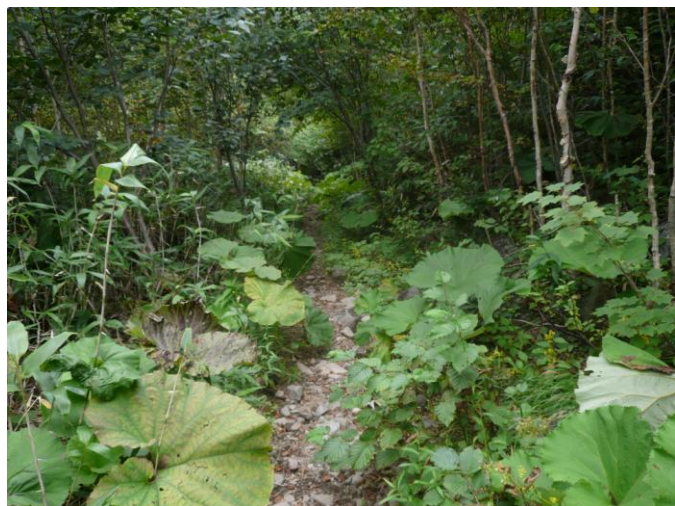




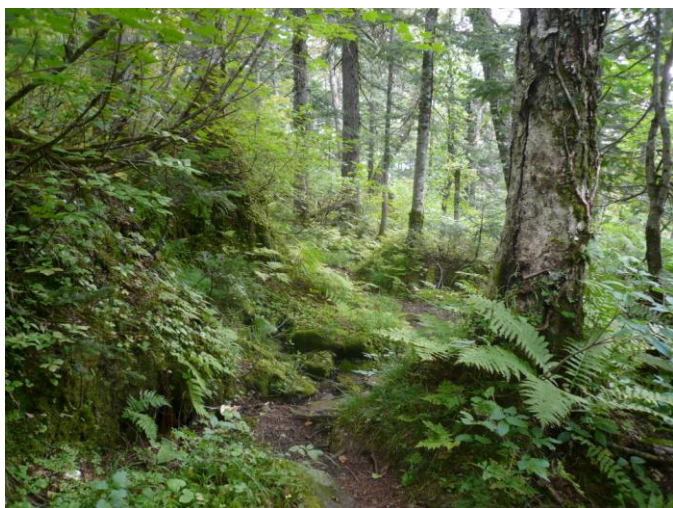
布部川三ノ沢。



分岐に戻った。往復 3 時間半、北海道の原野を味わうことができた。



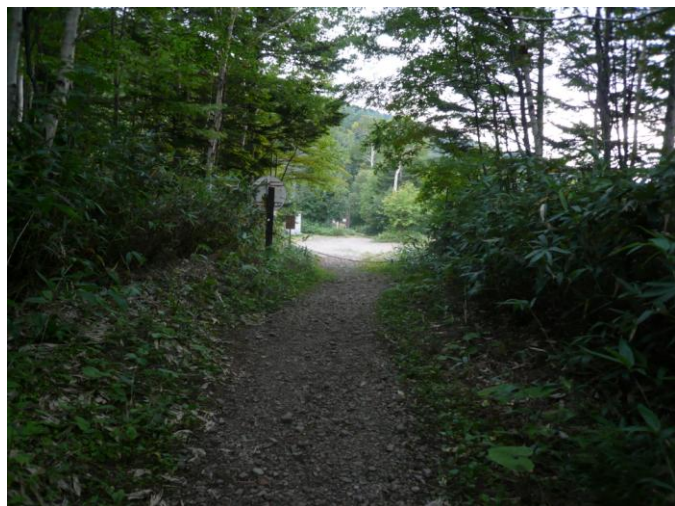
登山道脇には大きなフキのなかまの葉っぱが生い茂る。



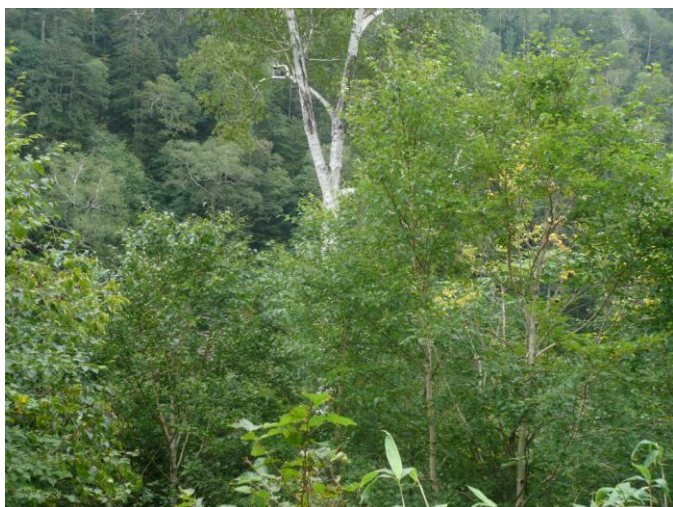
沢沿いの登山道を進む。



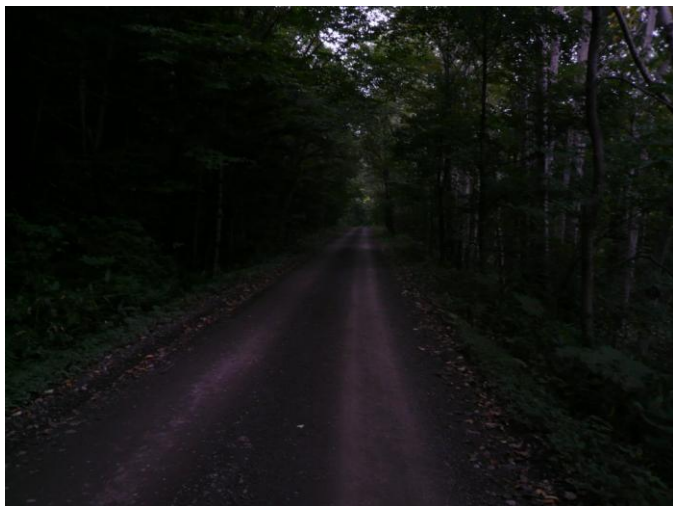
天使の泉。穴の中を冷たい水が豊富に流れている。



原始ヶ原登山口の駐車場に無事到着。



登山口から林道歩き。バス停まで 7km 以上歩く。



薄暗くなってきた。



日の出キャンプ場。2泊した。



ここからは車道。街灯がなくて真っ暗なのでヘッドライトをつけて歩く。



吹上温泉。



登山口から約2時間、ようやくバス停に到着。最終バス、最終電車を乗り継いで、上富良野駅近くのオートキャンプ場でテントを張った。



上富良野のキャンプ場から眺める十勝の山々。右端が前富良野岳、その左が富良野岳。十勝岳は雲の中。